

国内生産量低迷続く

干

瓢



あめ

国内生産量の大半を占める栃木産干瓢。ピークの78年に3千40haあった作付面積は、食生活の変化からくる需要減少や農家の高齢化もあり、80年代以降は縮小の一途。現在の面積は当時の5%程度だ。かつて5千t

を超えた生産量も激減し、昨年は前年比約1・2%（3t）減の257tと3年連続の300t割れで着地した。作付面積は112・8ha（2・2ha減）、生産者数は285戸（5戸

減）。輸入量の大半を占める中国産も、干ばつとその後の長雨の影響から低品質・高価格となっている。

栃木産干瓢生産状況

